

令和7年4月18日

意見陳述書

福岡高等裁判所民事第1部 御中

控訴人 工藤康紀

第1 はじめに

私は、控訴人の工藤康紀です。

1970年4月に大学に入学し物理学を専攻しました。そのため原子力発電の原理となる核分裂の連鎖反応についても当然に学びました。このような新しい知見に触れることは当時ワクワクするような楽しい感覚がありました。が、一方で原子爆弾や原子力発電所の原子炉から発生する放射線による人体や自然界への影響も気がかりな点であったことを記憶しております。さらに最近は、原子力発電所の安全性にも疑問を抱くようになりました。

2011年に起きた東日本大震災の後、福島県へ災害ボランティアに大分市から行くようになり、その後、2015年4月から2年間福島県いわき市にある福島高専で働きました。その理由は、東北地方太平洋沖地震による福島第一原子力発電所の事故によって苦しんでいる人たちのために現地に住むことにより、具体的な支援をしたいという強い思いがあったからです。その後も、主に南相馬市で災害ボランティア活動を続けてきました。その経験から意見を述べさせていただきます。

第2 「福島」での体験から

ボランティアの中で忘れることのできないことがあります。それは、災害ボランティアとして初めて南相馬市に到着しバスから降りた時の恐怖です。

その地域は高い放射線のために子どもたちは親と共に疎開して街には人影が全

くありませんでした。言葉は悪いですが、まるで「死の街」でした。

現地で強く感じたのは原発事故の想像を絶する被害の大きさです。私達ボランティアに家の片づけ作業を依頼した農家の高齢の男性は、私にポツリと言いました。「原発事故さえなければ、あと１０年は農家を続けていただろう。けど、もうダメだ……。」と。この人の奥さん、子ども、その家族は、県外に避難し、この時、彼は自分が生まれ育った家に一人で寂しく暮らしていました。周囲は放射性物質に汚染されていました。彼は、家族とも、仕事とも、故郷とも引き裂かれたために、全てにやる気をなくしてしまったのです。

次に、この写真を見て下さい。



大熊町の帰還困難区域の中にある牛を飼っている「もーもーガーデン」で、許可を得てボランティア活動をしたときに撮影したものです。以前は田んぼがあり、その脇の給水施設の回転ハンドルです。ここが帰還困難区域となり人間が入ることができない数年の間に田んぼは原野となり草木がおい茂り、そのハンドルを回らないように木が固定してしまったのです。原野となった土地には

その後取り残された牛が１１頭飼われていました。牛は出荷するためではなく単にここで死を迎えるしかありません。放射線に汚染されているというだけで移動の自由は全くありません。帰還困難区域が解除されるのをただただ待つだけです。

先ほど福島高専で２年間勤務したと言いましたが、高専の学生は津波被害について話すことはありましたが、放射線の被害についてはほとんど話をしませんでした。何だかおびえているというか、何かを言うと風評被害につながるのではないかと警戒しているように思えました。

福島第一原子力発電所から約２０ｋｍ北に位置する南相馬市でのボランティア活動をするなかで、何度となく聞いた現地の人の言葉があります。それは「あの原発事故さえなかったら……。」という言葉です。このような経験から強く感じたことがあります。それは『人間はミスをする。機械は壊れる。自然は想定外を起こす。』ということです。

第３ 原子力発電所の過酷事故

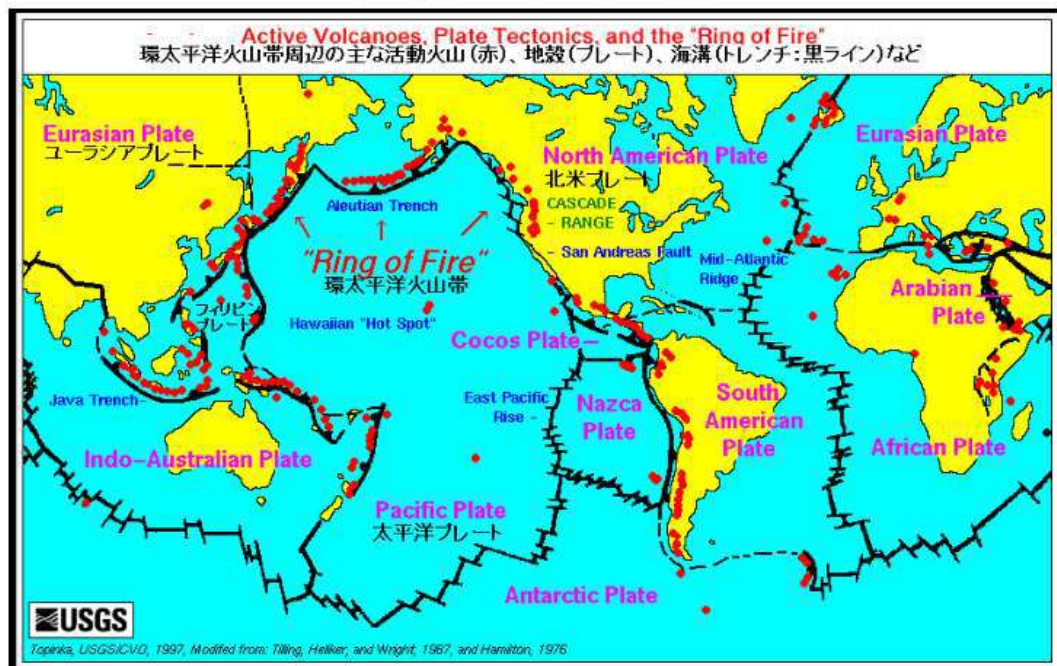
昨年、能登半島地震の災害ボランティア活動にも行き、そこで幻となった珠洲原発建設予定地を見ました。周辺には白い海岸線が広がり海岸が隆起していることは明らかでした。まさに珠洲原発は造られなくて本当によかったと安堵しました。もし造られていれば福島の帰還困難区域と同じようなことになっていたことでしょう。

２０１１年３月に起きた福島第一原子力発電所の過酷事故以外にも、世界的には元ソビエト連邦にあったチェルノブイリ原発事故やアメリカのスリーマイル島原発事故があります。ところで、この福島第一原発事故と他の二つの事故とでは決定的な違いがあることをご存知でしょうか？ それは、「事故原因の発端」の違いです。後者２つの原発事故は人間のミスが発端とされています。一方で、福島第一原発事故の発端は地震とその後起きた津波による全電源喪失であると言われています。つまり自然災害が事故の発端です。そして、この

自然災害はいつどんな形で起きるかが全く分からないこともあります。

ここにある世界の火山帯地図【図面】を見てください。

世界の火山帯



主にプレートの境界に火山があり、地震がその周辺で多発します。ロシアやアメリカなどにはこの影響を受けない土地があるかもしれませんが、しかし、日本周辺を見てください。とても安心して原子力発電所を作る場所があるとは思えません。自然は想定を超えた事故を起こします。実際、これまでに4か所の原子力発電所において、原発の安全度を左右する基準地震動を超過する地震が5回も観測されています。

原子力規制委員会は四重五重の安全装置を施していると言いますが、それで過酷事故が起きないという保証はどこにもありません。しかも通常の発電所の事故と違って原子力発電所の過酷事故ではその被害程度は膨大となり、福島第一原子力発電所での事故のように何十年にもわたって人が住めなくなるのです。原子力発電所でも事故は必ず起きます。「想定外」では許されません。国の存亡に係わる事故が起きてからでは手遅れです。

また、原子力発電所から出てくる高レベル放射性廃棄物の最終処分場は未だに決まっておらず、「原子力発電所はトイレなきマンション」と言われていることから、人権問題と言って過言ではありません。中央構造線断層帯（活断層）の近くにある伊方（原子力）発電所は日本の原発の中でも特に危険と言えます。

第4 想定外は許されない

再度言います。『人間はミスをする。機械は壊れる。自然は想定外を起こす。』と。原子力発電所では想定外の事故が起きてからでは手遅れです。破滅的な未曾有の原発事故が起きる前に原発を止めていただきたいです。

四国電力は原発を即時停止し、原子力以外の電力エネルギー源の開発に資金をつぎ込んでほしいです。1970年代ならいざ知らず今はその時期に来ています。そして、裁判所に対しては、国民を守る、国を守るためにもどうか原発の停止に向けて、司法権を適切に行使していただきたいと思います。

以上です、ありがとうございました。